

【事業の経緯】

別添資料1

港湾-4 佐世保港改修事業の経緯

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
当初 (H21新規評価)	—	H21	H24	38.0	3.47	岸壁(-10m)170m 泊地(-10m)13.6ha
第1回審議 (H26)	再評価後 5年経過	H21	H26	40.0	1.72	岸壁(-10m)170m 泊地(-10m)13.6ha
第3回審議 (H27:今回)	社会経済情勢 等の変化	H21	H30	47.0	1.31	岸壁(-10m)170m 泊地(-10m)13.6ha

※今回が第1回審議の場合も、「提出もれ」を防ぐ為に、提出をお願いします。

## 再評価の結果

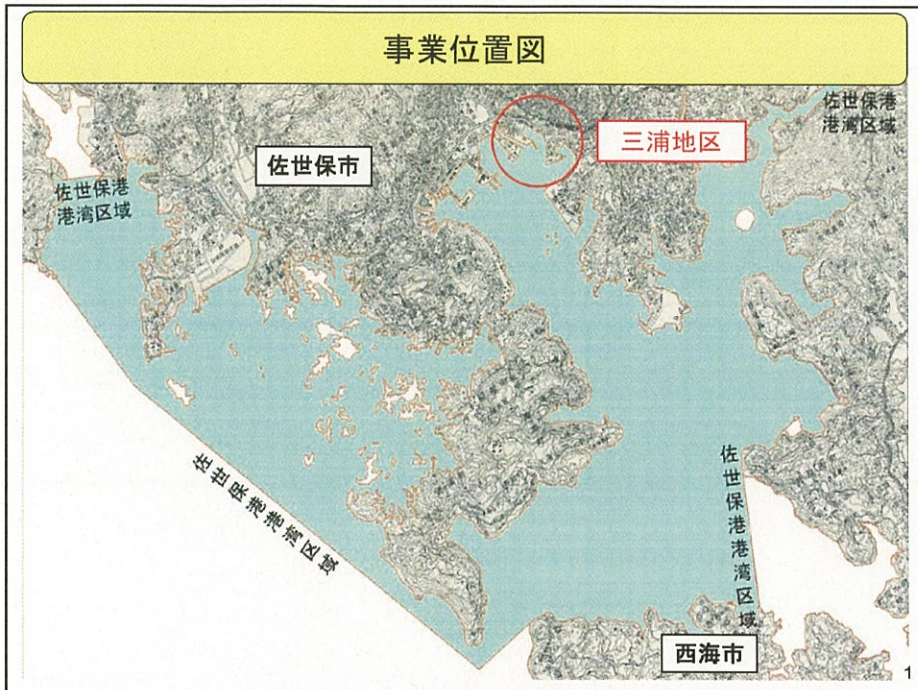
【港湾整備事業】

平成27年7月8日

事業名	佐世保港 三浦地区 国際物流ターミナル整備事業					
所在地	長崎県佐世保市			事業主体	佐世保市	
事業概要	佐世保港三浦地区に、岸壁(-10m)(耐震)延長170mと泊地(-10m)面積13.6haを整備する。					
事業期間	平成21年度～平成30年度			総事業費	47.0億円	
既投資額	評価実施年度まで40.0億円			事業進捗率	85%	
目的・必要性	背後企業の輸送コストの削減に対応し、佐世保港の物流の効率化を図る。また、大規模地震発生時の海上物流機能の確保を図る。					
評価の基となる 需要予測	H25年度全国コンテナ流動調査結果から推計 震災時の緊急物資を港湾計画に基づき、平成20年港湾背後人口により推計					
事業を巡る社会経 済情勢等の変化	船舶の入出港時に使用する水域において、浅所箇所が判明し、当事業の十分な効果発現ができないため、追加工事が必要となった。					
費用対 効果 分析	費用	貨幣換算した主要な費用		建設費、管理運営費		
	便益	貨幣換算した主要な便益		輸送コストの削減 緊急物資の輸送コスト削減、岸壁復旧費の節約		
	分析	費用の生じる時期		平成21年度		
	効果	効果の生じる時期		平成31年度		
	分析	社会的割引率	4%	現在価値化の基準年度	平成27年度	
		総費用	55.2億円	総便益	72.2億円	
		B/C	1.31	B-C	17.0億円	EIRR
	定量的・定性的に 考慮した費用	なし				
	定量的・定性的に 考慮した効果	なし				
事業の実施のめど・供用のめど	平成30年度に事業完了予定					
代替案の有無	なし					
新たなコスト縮減の可能性						
事業実施によるメリット ・デメリット	事業完了により、輸送コストの削減、緊急物資輸送等の機能が確保される。					
対応方針	継続					
対応方針の決定理由	事業の投資効果及び進捗の目途が確認されたため。					
日程・手続	平成25年度に、岸壁(-10m)(耐震)が完成。平成26年度に、泊地(-10m)が完成。船舶の入出港時に使用する水域における浅所箇所の浚渫は、平成30年度までに完成予定。					
事業評価監視委員会の結論・意見						
備考						



## 事業位置図



## 佐世保港三浦地区国際物流ターミナル整備

平成26年2月撮影

### 事業目的

- 「九州サブゲートウェイ構想の実現」  
⇒ 背後圏の物流コスト削減、国際競争力の強化
- 大規模地震発生時の避難者・緊急物資輸送機能の確保

泊地(-10m) 13.6ha

岸壁(-10m) 長さ: 170m

佐世保駅





## 再評価に至った経緯

平成26年2月撮影

泊地浚渫工事完了に伴う水深測量を実施

船舶航行範囲に浅所が判明

航行に支障があり、十分な効果発現ができない

浅所の浚渫を実施

浅所

泊地(-10m) 13.6ha

岸壁(-10m)耐震/170m



## 佐世保港三浦地区国際物流ターミナル整備

平成26年2月撮影

総事業費

47億円【7億円増】

事業期間

平成21～30年度【4箇年延長】

泊地(-10m) 13.6ha

岸壁(-10m)耐震/170m

佐世保駅

事業効果

- 輸送費用の削減、輸送時間の短縮
- 耐震強化岸壁による緊急物資輸送費用の削減等

B/C=1.31

事業継続

